

学校教育目標		総合評価		
「花とみどりと笑顔の学校」		「学校に行くのは楽しい」と答えた児童が増えている。生活科・総合的な学習の時間を中心に、もの、こと、場所と関わり、自らの「願い」を実現させようと主体的に考えたり、話し合ったりし、目を輝かせて活動する姿が見られた。「親子人権集会」「ふれ愛センター」「職場体験学習」「クラブ活動」等、多様な他者との対話を通して、人の温かさに触れながら学ぶ楽しさを感じることもできた。引き続き、北小のよさである、地域のもの、こと、場所とよく関わり合いながら、基礎学力(目を輝かせ、心身を躍動させるエネルギー)を育んでいきたい。		
10年後、20年後に大輪の花を咲かせるための今の創造				
今年度の重点目標		成果と課題	評価	改善策・向上策
よくふれあい…「友だちをいっぱいつくろう」 ・教師は、子どもが他者とつながることや子ども同士がかかわり合うことをサポートし、人に対する愛着心を育むことができたか。		・高学年が率先してあいさつをする姿が低学年にも広がっている。生活科や総合的な学習の時間を中心に保護者や地域の方に積極的に授業に参加していただいた。地域の方の温かさに触れる多くの機会をもつことができた。	A	・学校内だけでなく、どの場面・どの相手でも、あいさつが必要な場面では適切な声の大きさでできるよう呼び掛けて行く。地域の方と関わり共に学ぶ活動の様子について、保護者の方も地域の方に、もっと知っていただける方法を考えていく。
よく学び…「自ら学ぼう」 ・教師は、「生活科」「総合的な学習の時間」における探究的な学習を重点にして、子どもたちの基礎学力を向上することができたか。		・生活科・総合的な学習の時間において各学年、学級ごとに児童の「願い」を中核に据えて活動をおこなった。子どもたちは課題解決に積極的に向けて話し合った。また、友達や教師、地域の方との触れ合い、対話を通して、人との関わりや場を広げ主体的・探究的に学ぶ姿が見られた。	B+	・生活科・総合的な学習の時間で得た主体的・探究的に学ぶ学習形態を他の教科学習にも取り入れ、子どもたちの学ぶエネルギーを高めていく。 教科担任制、担任交換、コース別学習等を継続し、複数の職員で児童を見守り、個に寄り添った学びを支援していく。
よく遊ぶ…「たくさん遊ぼう」 ・教師は、遊びの時間を大切にしたい働きかけをし、遊びを通して子どもたちの意欲や主体的に活動する力を育むことができたか。		児童会や高学年児童が企画した、中庭や扇池、コミュニティールーム等での企画に、全校児童が参加し、学年の枠を超えて遊びを楽しむことができた。	A	児童会主催の「ふれ愛ルーム」の活動が好評だった。児童・地域・保護者が集って楽しむ場として：属していきたい。専科職員で児童の遊びの見守りをおこなった。困っている児童がいないか引き続きおこなっていく。

領域	重点	評価項目	評価の観点	成果と課題	評価	改善策・向上策
学	よくふれ合い	あいさつの響く学校づくり かかわり合う場の確保	「5つのあいさつ」(1日に何度も、相手を見て、会釈して、笑顔で、自分から)をおこなっている。	・高学年が率先して自らあいさつを行っている姿が低学年にも浸透しつつある。その上、低学年らしいはっきりとした大きな声であいさつする児童が増えてきている。 ・校内でのあいさつは、向上してきているが、登下校の際はまだまだ十分とはいえない。	B+	・どの場面でもどなたが相手でも、その場に合った適切な声の大きさでのあいさつを目指したい。その為に学校ではロールプレイを行って客観的に学んだり、学校日よりなどで家庭に呼びかけたりし、継続して取り組んでいく必要がある。

校 教 育	よく 学 び		北小応援団と連携した活動を積極的に行い、地域のもてる力を有効活用している。	・フラワーロードの活動やクラブ講師だけに留まらず、生活科や総合的な時間を中心に、北小応援団とともに、様々な活動を行うことができている。	A	・活動に対して、子どもも大人も楽しむという姿勢を更に続けていきたい。
		学年の枠を超えて友だちと交流する場の保証	学年内やペア学級さらには全校で友だちとふれあう活動・子どもたちのアイデアを生かした児童会活動を通して、互いに高め合う活動を行っている。	児童会活動を中心とした取り組みが活発に行われた。これら上級生の取り組みの姿を下学年児童が感じ取り、引き継がれていくと考える。 ペア学級の取り組みについては工夫が必要である。異学年交流の入口としていけるとよい。	B	上級生の取り組みから下学年児童が心地よさを感じ取ることができれば、今後も継続していく。上級生の取り組みをしっかりと意味づけていく評価のあり方を考えたい。
		生活科・総合的な学習の時間の充実	以下の点を大切に「生活科」や「総合的な学習の時間」の授業を行っている。 「自ら学びに向かう子ども～『問い』を基にした3つの視点を手掛かりにする探究活動を通して～ ・授業づくり(教師の仕掛けと支援) ・教科横断的な学び ・地域との協働	多くの児童が、学ぶことの楽しさを感じることができている。思考することの楽しさを味わえるようになってきていることが大きな財産となっていくと考える。 一方で、学ぶことの楽しさを十分味わえない児童もいる。「できる喜び」「分かる喜び」と共に「思考する喜び」や「共に学ぶ喜び」といったあらゆる側面から学ぶことの楽しさに触れさせたい。	B+	生活科・総合的な学習の充実に限らず、すべての教科に於いて、授業力の向上は必須内容である。不断の努力によりその力を高めていくことを怠らないよう考えていきたい。 来年度も引き続き、本校の強みである豊かな環境、地域とのつながりを活かし、生活科、総合的な学習の時間を充実させていく。
		「ハッピータイム」(外遊びやかかわり遊びの日)の位置づけの継続充実と、遊びの時間の確保	子どもと一緒に外遊びを含むかわり遊びを楽しんだり、子どもが遊びに進んで取り組めるよう働きかけたりしている。	・ハッピータイムでは、楽しく友だちと遊んでいる姿が多くみられる。 ・総合的な学習の時間と関連した中庭や扇池での企画や児童会での企画等が休み時間に多く行われて、企画を通して、多くの児童が学年関係なく楽しく遊ぶことができている。 ・児童や保護者の評価も高く、30分の遊びの時間の確保は効果的であると感ずる。	A	・ハッピータイムの時間に遊び方や友だちとの関わり方で困っている児童がいないかを常に把握していくことは必要である。 ・ハッピータイムでの友だちや他学年との交流の様子を伝えていく保護者の方に情報発信していく必要がある。 ・コミュニティールームの有効的で持続的な活用法の検討を推進していく。
学 校 経 営	保 護 者 地 域 と の 連 携	情報の発信	教育方針・取組やその成果・連絡など、必要な情報を定期的に発信している。	・HPの更新や学年・学級通信の発行を通じて、学校での取り組みや子どもたちの様子を発信することができた。	B	・定期的な情報発信をつづけていく。 ・イラストや写真等の著作権に関しては、十分に気を付けて使用する。 ・多くの保護者の方や地域の方に情報を見てもらうため、発信手段についても検討していく。
		P T A・ボランティアとの連携	P T Aやボランティアとの連携を十分行っている。	北小まつり、フラワーロード、星空観察、総合的な学習の時間、職場体験を含む校外学習で地域の方々に関わりながら学んでいる。	A	今あるつながりを大切にし、PTAや地域の方々に感謝して、協働的な学びができる体制(取り組み)を維持していく。

		一人一人に寄り添った支援	全職員で児童を支え、一人一人に寄り添った支援をおこなっている。	教科担任制、少人数・コース別学習等複数の職員で児童を見守り、子に寄り添った方策を練り、児童支援を行っている。個別懇談会も複数回実施している。	B+	児童アンケート、懇談会や個別の相談を通して聞き取り、チームを組んで具体的支援を引き続き行っていく。
--	--	--------------	---------------------------------	--	----	---